［認知症対応型共同生活介護用］

１．　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成　21年　2月　20日

【評価実施概要】

事業所番号	4271600704
法人名	社会福祉法人　長崎友愛会
事業所名	グループホーム　ゆうあいホーム　今里
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町今里郷２５１－３２ （電　話）0959-52-2222

評価機関名	特定非営利活動法人　　福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町５番３号　大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平２１年　１月３０日

【情報提供票より】（平成20年　12月　28日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１６　年　５　月　１　日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	15　人	常勤　14人，　非常勤　1人，　常勤換算　6.5人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	１階建ての　１階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	9,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　600　円			

（４）利用者の概要（　1月　30日　現在　）

利用者人数		18　名	男性　4 名	女性	14 名
要介護１		5　名	要介護２	4	名
要介護３		6　名	要介護４	0	名
要介護５		2　名	要支援２	1	名
年齢	平均	84 歳	最低　74 歳	最高	97 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	上五島病院・田坂医院・大坪歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは海と豊かな自然に囲まれた住宅地域の一角にあり、小規模多機能ホームと併設されている。日中はユニット間だけでなく小規模多機能ホームとの利用者同士の交流があり、手芸教室に参加したり会話を楽しんだりと自由に過ごされている。利用者の意欲も高く花植えや家事の役割分担など活気がある。地域密着型サービスへの前向きな取り組みとして運営推進会議を活用し、地域の方や町職員との交流が深まり、会議の内容の充実度も増してきている。職員の介護に対する向上心もあり、研修への参加や内部研修など意欲的に行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果は母体である法人本部に報告したあと、全体会議で職員全員に周知し改善に向けての具体案の検討や実践へ向けて取り組んでいる。昨年の改善項目であった事業所独自の理念の検討について、事業所独自の理念を、隣接している小規模多機能ホームも含む全職員に応募し、「親愛・もっと笑顔で、自分らしくを大切に」と掲げた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は全体会議で職員が話し合い、管理者がまとめている。全員が自己評価、外部評価の意義を理解しサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	今年度の会議は7月、12月、1月に開催されており、構成メンバーは、家族代表・地域の方・町職員・ボランティアである。議題は介護状況報告・年間活動計画・地域との交流行事等の報告が主になっており、意見交換も行われている。会議の中で取り上げられた意見が行事にも活かされるなどサービスの質の向上に繋がっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	玄関に「ご意見箱」と書かれた内部の苦情窓口が設置されているが、これまで苦情や要望などは無くあまり活用はなされていない。また、玄関の掲示物や重要事項説明書の苦情処理に関する事項には内部の受付窓口は明記されているが、外部の受付窓口が明記されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	事業所は「いまざと地域塾」の一員としてラジオ体操、納涼祭等の行事での交流がある。地元の保育園児が散歩の帰りに事業所に立ち寄り利用者と触れ合ったり、小学校からは、事業所に届けられる学校のお便りに小学校の行事等のお知らせが記載してあり事業所が参加できるようになっているなど、地域との連携はさらに深まっている。

2.　評　価　結　果　（　詳　細　）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の改善項目であった事業所独自の理念の検討について、事業所独自の理念を、隣接している小規模多機能ホームも含む全職員から募集し、「親愛・もっと笑顔で、自分らしくを大切に」と掲げた。地域の中でその人らしさを大切に安心したサービスが受けられるように全職員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のフロア会議で理念を絡めた月の目標を掲げ、申し送りノートで確認し全職員が互いに声かけ認識している。また、月例の全体会では母体の理念の再確認も行われている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は「いまざと地域塾」の一員としてラジオ体操、納涼祭等の行事での交流がある。地元の保育園児が散歩の帰りに事業所に立ち寄り利用者と触れ合ったり、小学校からは、事業所に届けられる学校のお便りに小学校の行事等のお知らせが記載してあり事業所が参加できるようになっているなど、地域との連携はさらに深まっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全体会議で職員が話し合い、管理者がまとめている。外部評価の結果は母体である法人本部に報告したあと、全体会議で職員全員に周知し改善に向けての具体案の検討や実践へ向けて取り組んでいる。全員が自己評価、外部評価の意義を理解しサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の会議は３ヶ月に１度開催されており、構成メンバーは、家族代表・地域の方・町職員・ボランティアである。議題は介護状況報告・年間活動計画・地域との交流行事等の報告が主になっており、意見交換も行われている。会議の中で取り上げられた意見が行事にも活かされるなどサービスの質の向上に繋がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の相談や運営方針については、包括支援センターに問い合わせたり、町の社会福祉課にも相談している。また、必要に応じて頻繁に来ていただき、事業所の実情やケアサービスの取り組みを、折に触れて伝えている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、声かけして職員が利用者の状況を伝えるようにしている。遠方の家族には、電話での連絡を行っている。毎月の金銭管理については、定期的に報告がなされているが、利用者の暮らしぶりや職員の異動の際の報告などはなされていない。	○	遠方の家族には、月毎の収支報告書の発送時に、利用者のホームでの様子を伝える便りや職員異動を知らせるよう定期的な報告を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」と書かれた内部の苦情窓口が設置されているが、これまで苦情や要望などは無くあまり活用はなされていない。また、玄関の掲示物や重要事項説明書の苦情処理に関する事項には内部の受付窓口は明記されているが、外部の受付窓口が明記されていない。	○	家族が事業所内に伝え難い不満や苦情、意見を表出する場を設け、事業所の質の向上につなげるためにも外部の受付窓口を玄関付近の掲示物や重要事項説明書などに記載し、家族に説明し配布することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	２ユニットそれぞれの勤務シフトがあるが、職員はユニットに固定せず、どちらのユニットにも対応できるよう支援している。職員は全員、出勤時に必ず全ての利用者と挨拶を交わし、馴染みの関係を作るよう努めており、異動や退職による利用者へのダメージを極力抑えるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外の勉強会では、母体独自の新人研修や管理者研修などに参加している。年間計画はないが、内部研修や社協からの案内など回覧で全職員伝え希望の研修は受講し、経験に応じて必要な研修への参加を促し段階的にトレーニングしている。研修報告がなされ、資料は閲覧できるよう整備し管理されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	３ヶ月に一回、管理者同士の交流の場があり、隣接している小規模多機能ホームが他の事業所の見学受け入れた際には、協力して同業者と意見交換するなど相互のサービスの質の向上に努めている。ただし、職員同士の交流の場は、まだ実現できていない。	○	同業者と交流することで職員は日々の支援についての振り返りや気づきがあるなど支援の質の向上につながると考えられる。他事業所の職員と交流の場ができるようネットワークづくりを期待する。
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	包括支援センターや病院から相談を受け、ケアマネージャーが本人や家族と面談し、事業所の説明をして利用の確認を取っている。本人には見学に来てもらって、必要なサービスを体験してもらい、また職員も利用者に面会行くなど徐々に顔馴染みの関係を作っている。また、家族の要望を聞き、状況を見ながら利用開始へとつなげている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のその日の状態で気分が良い時は、日中はテレビやゲームなどで職員も一緒に楽しめるような場面作りをしている。日々の暮らしの中で、利用者から昔の話を聞いたり、花を育てる喜びなど学んだり、喜怒哀楽をともにして、互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望は、その日の体調に合わせて利用者本人にさりげなく声かけ、状態を聞きながら、その都度対応している。困難な場合は、利用者の表情や体調の変化に合わせてそれぞれに配慮し、暮らしの時間帯なども柔軟に対応している。正月の書初めの機会を利用し、利用者の要望を聞くなど本人本位に検討し視線している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	まずは、利用者・家族や介護支援専門員と意見交換し、ミニカンファランス帳やアセスメント表を参考に各フロアのリーダーと担当者で話し合い計画を立てて、ケアマネージャーが最終確認をする。ケアプランの書式が利用者や家族の意向が確認できる書式に変わり改善が見られる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期３ヶ月で行われている。毎月１回のフロア会議でさらに個人の細かい目標が作成されている。ミニカンファレンス帳に利用者の状態や対応が記載され職員間での情報の共有がなされ、その中で変化が見られると現状に即したサービス内容の見直しがなさている。現状維持の場合でも家族と相談し同意を得ている。家族が遠方で来られない場合でも、電話で連絡し同意を得るように努めている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は併設する小規模多機能ホームの職員と協力して利用者のその時々の要望や必要に応じて職員の人数を増やして柔軟な対応している。インフルエンザの予防接種時、早めに受診させたり、墓参りやドライブなど柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は以前からのかかりつけ医の受診の継続が可能である。全利用者の受診日一覧を作成し介助支援している。協力医との連携もとれている。また訪問看護も週１度あり健康管理に気を配っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には利用開始時に事業所の看取り・終末期の説明を口頭で行い。同意書も作成されている。重度化の段階に入ると医師から家族への説明があり、方針を共有しターミナルケアまで行う体制を作っている。また実現はなかったが受け入れ準備があり職員への勉強会などもなされている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守秘義務の誓約書が作成されている。また家族からも個人情報に関する同意書もいただいている。書類の保管もプライバシーに気がけている。利用者に対しては尊厳を持った声かけを行うように指導されており、馴染みと方言の使い分けを行っている。またトイレ誘導はさりげなく職員が席を外し、利用者の様子を見守るように職員同士で注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、起床時間や食事の時間は利用者の気分や体調に自由に合わせることができる。食事の場合はおやつに時間などで調節したりしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配食を利用している。職員は食事や日常の事など会話をしながら、利用者の食事の介助、見守りをおこなっている。利用者は食後に皿拭きをしたりしている。月に１～２度昼食を作る日があり、利用者と下ごしらえから楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週土曜日以外はいつでも入浴できるように準備がなされている。入浴時間も利用者の希望を聞いて朝からや昼食後など様々である。広さは、複数でも対応できるだけの広さに一人ずつ利用していただき、同姓介助の希望や、体調に合わせてなるべく希望に添うように努めている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はそれぞれできることを自ら行っている。例えば皿拭きや洗濯物タタミ、新聞折りなどである。声かけで利用者がやる気になっており、分担表を用意し皆で仲良く行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前で日光浴を兼ねたおやつの時間を設けたり、ホームの周りを散歩したりしている。また、利用者の希望の店や場所に行くこともある。外出の効果を職員は理解しており、初詣など季節にあわせた外出も計画されている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は夜間以外は施錠されていない。またリビングが出入り口と接しており、職員は見守りを心がけており、利用者への声かけを行っている。地域との見守り連携もとれている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの火災訓練が年２回、利用者、併設の小規模多機能ホームも参加して開催されている。今年１月の訓練では、夜間想定で利用者も参加し、消防署の協力体制の下で実施されている。避難準備として利用者の名簿と連絡先、非害袋を用意し定期的に中身の確認を行っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は配食を利用している為、給食会議を業者と行っておりホーム長が利用者の嗜好やアレルギー、味覚を伝えている。一日１０００～１５００ｍｌの水分量を目標にしている。体調にあわせ水分管理表も作成されている。その日の献立が利用者の体調などで食べれない場合は代用品も準備されており併設の小規模多機能ホームと交換することもできる。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたリビングと畳のコーナーがあり、利用者は各々好きな場所で過ごすことができる。季節の飾り付けや、イベントや家族の出ているＤＶＤをゆったり見れるように模様替えを行ったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には加湿器、冷暖房が準備され、過ごしやすい状態になるよう職員が管理している。テレビや冷蔵庫など利用者の必要な物は何でも持ち込むことができる。		

※ ▒ は、重点項目。